

# III-32 若戸吊橋の補剛桁断面形の撰定方針 及び 其他 について

東大教授 正負工博 平 井 敦

若松-戸畑間を吊橋をもって連絡する計画が現在進行中であるが、吊橋補剛桁の断面形の撰定は吊橋の耐風安定上重要な事項である。種々な事情によって全径間模型による風洞実験を行うことが出来ないので、補剛桁の流体力学的係数の測定、補剛桁をバネで支持した所謂「部分模型」の風洞実験、静的横荷重による吊橋の挙動の研究、及び Kármán 渦に関する実験等を現在東大橋梁研究室で行っている。

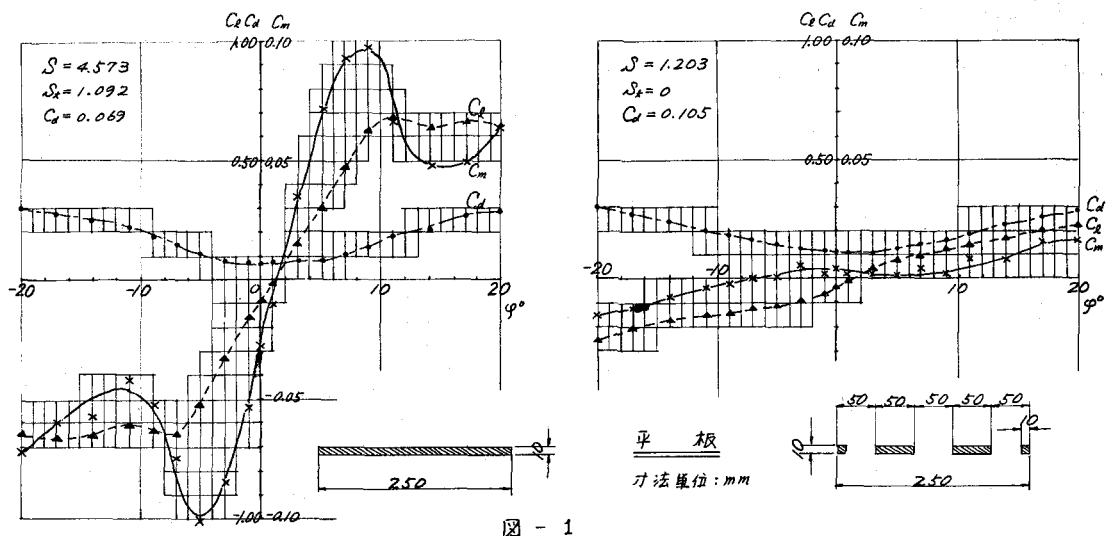


図 - 1

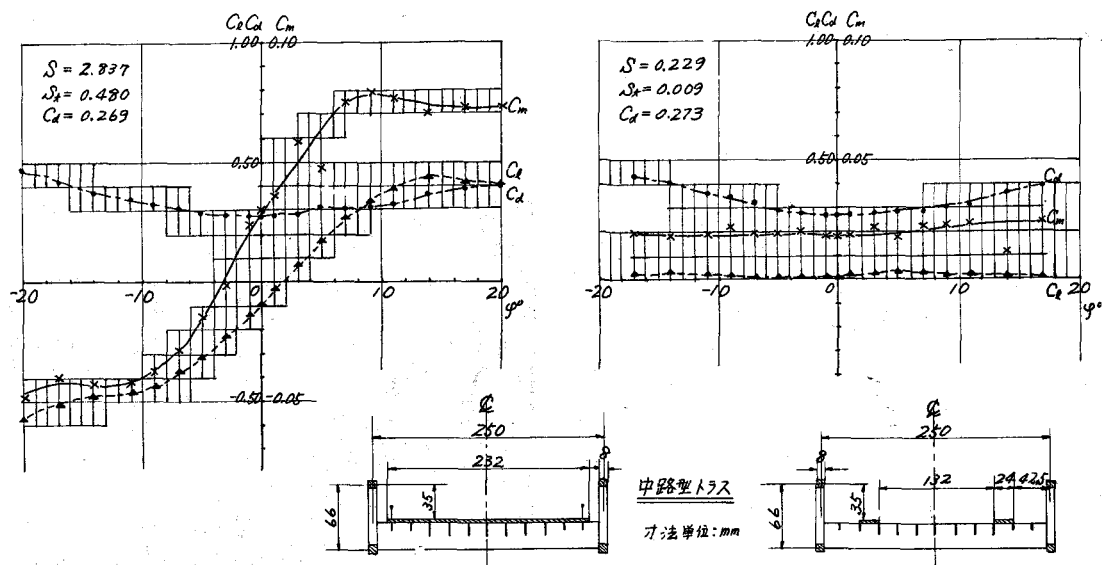


図 - 2

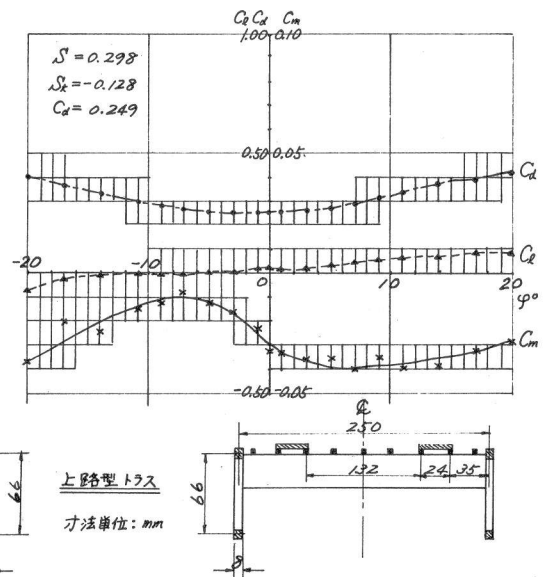
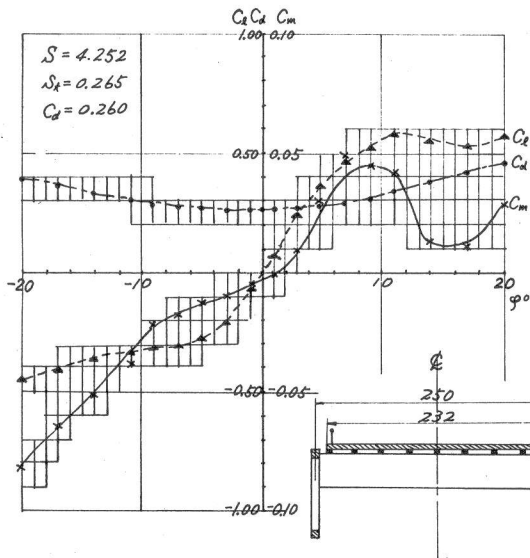


図 - 3

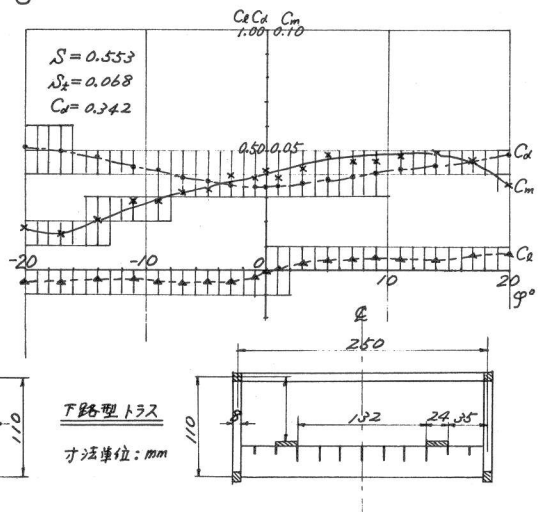
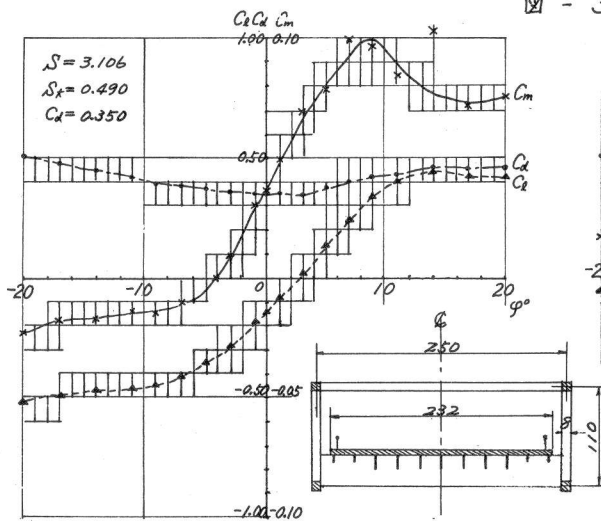


図 - 4

この講演では主として補剛桁断面形の選定方針について述べ、公表の自由が許されるならば具体的な案に迄触れてみたい。

